海外駐在員現地レポート・上海事務所（2022 年７月）

報告者　日中経済協会上海事務所 北海道経済交流室長　早田 武志

（件名）海南省海口市で「第２回中国国際消費品博覧会」開催

海南省海口市で開催された「第２回中国国際消費品博覧会」に参加しましたので、概要を報告します。

１．背景　～海南省自由貿易港と離島免税～

海南省は、中国最南端に位置し、面積は 3.39 万㎢で、台湾（3.6 万㎢）より少し小さな島である「海南島」全域を対象とする省レベルの行政単位です。

国務院が 2020 年 6 月 1 日に発表した「海南省自由貿易港建設全体方案」に基づき、中国政府は 2035 年の島内全域での高水準の自由貿易港の実現を目指し、貿易や投資の自由化を段階的に進めています。

この一環として、海南島から国内他地域に移動（＝離島）する際に、1 人当たり年間 10 万元（約 200 万円）を上限に、免税商品の購入が可能となる「離島免税」制度が導入されたことから、省都である海口市やリゾート都市である三亜市では、大規模な免税店モールが次々に建設され、活況を呈しています。

海南島には、近年、中国のハワイとも呼ばれる常夏の気候に加えて、貿易や消費における様々な優遇措置により、短期の旅行者だけでなく、中国各地（特に北方エリア）からの数週間から数ヶ月間にわたる長期滞在者が多数訪れており、彼らはいずれも比較的購買力が高いという傾向があります。コロナ禍により中国人の海外旅行が厳しく制限されたことが、海南省経済の追い風になった面も否定できません。

中国国際消費品博覧会は、海南省の自由貿易港政策の加速化を目的として、比較的高級な消費財を対象とする博覧会として、昨年初めて開催され、今回、２度目の開催となりました。

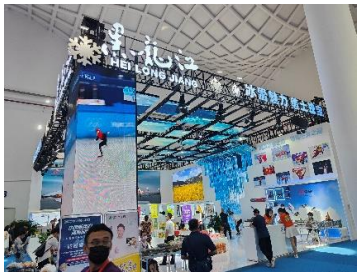
【博覧会概要】
名　称：第 2 回中国国際消費品博覧会（略称：消博会）
期　間：2022 年 7 月 26 日～30 日（5 日間）
主　催：中国商務部、海南省人民政府（国際経済発展局）
会　場：海南国際会議展覧中心（海口市）
面　積：約 10 万㎡（うち国際エリア 8 万㎡、国内エリア 2 万㎡）
出展者：61 カ国・地域から 1,955 社、2,800 余りのブランド
来場者：約 32 万人（うちバイヤー等：約 4 万人、般来場者：約 28 万人）
分　野：サービス業・ライフスタイル＆アウトドア、宝飾品、食品、
国際総合エリア、ファッション・生活、免税店展示、
国内各省・市・自治区展示　など

２．博覧会の特徴　～高級ブランドが中心／全国のバイヤーが来場～

海口の空港に降り立った時から街中まで、消費財博覧会のポスターやのぼり、大型モニターなどが至る所で目に飛び込んできて、地域の一大イベント成功への意気込みが感じられます。会場内の来場者密度は、過去に報告者が中国各地で参加した大型博覧会のいずれにも引けを取らないレベルです。

離島免税政策で注目を浴びる海南ビジネスの足掛かりとして、世界中の高級ブランドの化粧品を中心にブースが出店され、食品についても、ワイン、リキュール、生ハムをはじめとする高級食材の展示が目立ちました。離島免税政策を踏まえて、免税店事業者のブースが揃っているのも特徴です。

また、国内の各省、直轄市、自治区が、地域の有力産業や特産品を展示するブースを出展しており、例えば黒龍江省館は、全国有数のスキー産業と農産品を前面に展開していました。同時に、各省政府がバイヤー団体を結成して会場に乗り込んでおり、全国的な商談の波及効果も期待できる博覧会と感じました。


黒龍江省館

さらに、博覧会に合わせて新製品を発表する動きも活発に見られました。会期中に実施した新製品の発表会や展示イベントは 177 件、披露した新製品は 622 点に上り、日本ブランドでは、資生堂やファンケルなどがこうしたイベントを実施した模様です。

海外駐在員現地レポート・上海事務所（2022 年７月）

報告者　日中経済協会上海事務所 北海道経済交流室長　早田 武志

３．ＪＡＰＡＮモール（ジェトロ）　～酒類試飲エリアとライブ放送ブースが出色～

国際総合エリアに、ジェトロが日本産の高級消費品を出展する企業を取りまとめ、JAPAN モールを出展しました。日本産酒類コーナー、越境 EC 商品紹介コーナー、免税店紹介コーナー、個別企業ブースなどで構成され、個別企業エリアに 19 社、日本産酒類エリアに 17 社が出展していました。

今回の JAPAN モールの大きな特徴としては、酒類コーナーに大きな試飲エリアを配置していたことと、特設のライブ放送ブースを設置し、KOL（Key Opinion Leader）や出店企業のスタッフによるライブコマースを連続的に実施していたことが挙げられます。

また、免税店紹介コーナーには、海南島三亜市の免税店モール（海旅免税城）に入居するジェトロ直営免税店の日本製品サンプルを展示し、越境 EC コーナーでは、EC サイトで販売する商品のサンプルを展示し、気に入った商品は QR コードで EC サイトでの購入に誘導するなど、ジェトロが現在手がける日本産品の多様な販売チャンネルに即して、周到なＰＲ手法が準備されていました。

４．北海道コーナー　～「和匠優品」ブース内に、道産日本酒を出展～

海南島市場をメインターゲットとして日本産品の輸出を手がける華盛国際株式会社（東京）とそのグループ会社である海南和匠優品国際貿易有限公司（海南省）が、「和匠優品」というブランド名で単独ブースを出展し、日本酒、伝統工芸品など、北陸や四国の製品を中心に展示商談を実施しました。場所はジェトロのＪＡＰＡＮモールのすぐ隣です。

このブースの一角にご用意いただいた北海道コーナーにおいて、株式会社ニトリパブリックが道産日本酒 6 藏 6 品と網走ビール 3 品、ミネラルウォーターを出展しました。また、当事務所からは、北海道のポスターの掲示やパンフレットの配布を行いました。

ニトリパブリックの崔懿さんによれば、「海南省内のバイヤーのほか、上海市周辺、四川省、東北各省のバイヤーなど 10 数社と商談継続している。日本酒に精通するバイヤーは比較的少なく、基礎的な商品知識の説明が必要と感じた。」とのことです。

５．展望

今回、報告者が現地で交流した複数の免税店バイヤーからは、「海南島の市場にある日本製品の種類が絶対的に少なく、もっと多数の商品を扱う必要がある」「道産食品で良い物があれば、積極的に紹介して欲しい」との声を聞きました。これらは、日本製品にあふれる上海で生活する報告者には非常に新鮮に聞こえました。商品が消費者に認知され、現実に大きな販売に結びつくまでは大きな苦労があるかも知れませんが、まずスタートラインとして、バイヤーへの商品の紹介については、今後注力したい市場と感じたところです。

今後、ジェトロや華盛国際とも連携しながら、新たな市場「海南島」の開拓に取り組んでまいります。

海外駐在員現地レポート・上海事務所（2022 年７月）

報告者　日中経済協会上海事務所 北海道経済交流室長　早田 武志

（件名）海南島「離島免税」体験記

海口市内の免税店モール（日月広場免税店）を訪問し、海南島における優遇政策「離島免税」による買物を実際に体験してみました。

１．概要

離島免税は、海南島から国内他地域に移動（＝離島）する際に、1 人当たり年間 10 万元（約 200 万円）を上限に、免税された商品の購入が可能となるもので、対象者は、島民、外地在住者を問わず、外国人の利用も可能です。中国国内では海南島だけで適用されている制度です。

海外旅行の際に、市中の免税店で購入し、帰国時の空港で受け取る制度を活用したことがある方は、その中国国内版をイメージしてください。

日月広場免税店は、免税店事業者最大手の中国免税集団（CDF）が運営しており、面積は 2.2 万㎡と免税店モールとしては比較的小規模ながら、海口市内中心部にあるため、観光客で比較的賑わっています。国際消費財博覧会の参加パスを所持する客には、免税メリットに加え、15%の割引サービスが用意されており、島を挙げての博覧会盛り上げモードがここでも感じられます。

モール内には、免税品と課税品が混在しております。課税品は、一般貿易で税額が価格に付加されておりますが、その場で持ち帰りが可能です。

一方、免税店では、離島免税政策により関税、増値税、消費税（ぜいたく税）が免除されておりますが、海南島から離れる場合のみ購入が可能です。つまり、免税商品は島内で消費することができません。

２．購入の流れ

・市内の免税店では①代金を支払い、②預かり証を入手します。
・海南島の出発時に空港の安全検査場を通過した先にある受取カウンターで、③預かり証を提出し、④商品を受け取ります。

市内の免税店

①代金を支払い

②預かり証を入手

空港の受取カウンター

③預かり証を提出

④商品を受け取り

３．感想等

免税品の種類は、化粧品や高級菓子、洋酒、日本酒などが多く、それなりに高価であるため、免税制度を消費者として賢く活用するためには、事前の市中価格の調査が必須です。なお、報告者が購入した洋酒については、上海市中のオンライン酒店と比較して、（博覧会参加者割引前で）約 10%安価でした。

なお、離島免税品は、離島時点まで手ぶらで活動できるメリットと、購入後ただちに商品を消費できない不便さを併せ持つため、販売する商品の性格によって、免税制度の向き不向きがあります。店舗側が免税品と一般の課税品を併売しているのも、そのせいだと思われます。